

新春インタビュー

日本農業のこれから



公益社団法人
日本農業法人協会
山田 敏之 会長

——昨年を振り返って。

平成29年は、北部九州集中豪雨、8～10月の度重なる台風上陸など大きな気象災害が相次ぎ、農作物にも広範な地域で甚大な被害が生じました。当社もねぎ16haなどに被害を受けています。その前年も、せっかく国内産の需給が安定していたところを台風被害などにより輸入急増を招きました。

我々農業者はもちろん、農産物の安定供給を求める実需者にとっても深刻な状況が続いています。双方ともに、もう「台風だからしょうがない」などと言っていないのではないのでしょうか。強い農業づくりに向けて法整備がなされた一年でしたが、生産現場でいくら努力を重ねても、台風で台無しにされては何にもなりません。収入保険は確かに心強い制度です。しかし、大規模経営農家・法人ほど契約栽培を行っています。収入保険で一時的に収入は補完されても、契約が履行できないと

課題をどう解決し前進していくのか、農業者はもちろん農業法人・JA・関係機関が分け隔てなく協力し、みんなで考えていかなければならない時なのだと思います。

こうした動きが地域に広まり、それぞれの地域で自分たちの農業をどうしていくのかを、みんなで考えていくスタートの年になればと考えています。そのポストとしての役割を協会が担えればと思います。

30年産から国による生産調整がなくなる米については、値動きへの影響など不安視する方も多いと思いますが、米事業が本当に力量を問われる時期に入ってきたとも言えるのではないのでしょうか。よりよく変わるステージととらえ、次の戦略を組んでいく大規模法人も多いと思います。

TPP、EFTA、EPAなどについては、これまでの議論の中で協会会員の法人経営者は、ある程度腹を据えて戦略を練ってきていると思います。今後、日米FTAの議論が始まるとどうなるか、引き続き注視していきます。

——新たな年の取り組みのポイントは何？

協会内には、情報戦略・組織運営・政策提言・経営強化の4委員会があり、それぞれ活動を進めています。もちろん政策提言を適宜行っていきますが、要望したことを実践できるだけの体力を、協会会員もきちんと確立しなければいけないでしょう。そうした意識の醸成も行っていきたいと思っています。

若手の育成にも、「次世代農業サミット」開催をはじめ引き続き力を入れます。活きのいい若者たちが刺激となって、協会会員にハレーションを起こすくらいになってほしいと期待しています。協会会員の「子息のうち、経営に携わっている人はまだ少ないのが実情です。次世代への経営移譲を着実に進める中で底上げを図っていければ、たくさんの新規就農者を迎える中で、私自身も考えているところです。

農業法人は、新規就農希望者を迎え入れる場としても機能します。子どもと農業をつなぐ架け橋として東京で毎年開催している「フアーマーズ&キッズ

エスタ」は、これを機に就農への関心を持ってもらえればどの思いも込めています。

昨年12月、農研機構、経団連、先端農業連携創造機構とともに開催した「農業技術革新・連携フォーラム」は大変実りが大きかった反面、それぞれの認識に開きはまだまだ大きいように感じました。農水省には、世界の技術情報を集約したセクションを作ってほしいとお願いたとところです。

そうした世界の最新情報もふまねながら、それぞれができることを突き合わせ、新技術の開発・普及につなげられればと考えています。

——農業女性へのメッセージを。

当協会では、女性活躍推進に向けて先進的な取り組みを実践している農業経営体を選定・表彰する「農業の未来をつくる女性活躍経営体100選」(WAP100)を実施しており、3月6日に都内で29年度表彰式を行います。

欠かせない女性の力、女性目線

「おなかにおいしいヨーグルト」は腸内環境を改善します。

生存型ビフィス菌 LKM512

「おなかにおいしいヨーグルト」のお求めはこちら。メイトーオンラインショップ <http://www.meitoonline.com/>

協同乳業株式会社 0120-369817 <http://www.meito.co.jp/>

笑顔をいつまでも

第2の人生が健康ですごせるほど、しあわせなことはありません。私たちは、知らずしらずのうちに人生の荒波を乗り越えてきました。それも健康というかけがえのないもののおかげです。いつまでも健康でありたい。

組合員・地域住民一人ひとりの願いを、私たちはしっかりと受けとめ、形にしていきます。

健康をつくり、健康を守る —— 私たちは活動の輪を広げていきます。

—— JA厚生連の使命 ——

我々JA厚生連は、保健・医療・福祉の事業を通じ、組合員および地域住民の健康で文化的な生活を支援し、地域社会の発展に貢献してまいります。

JA厚生連・JA全厚連